

# バスケットボールU12指導者における 暴言暴力の根絶を目指して

豊田 則成

JBA-U12部会フェアプレー推進グループ  
(びわこ成蹊スポーツ大学 教授)

子ども の **未来** に  
**責任** を持つ

# 本日のメニュー

□ 暴言暴力は認められない

□ 暴言暴力の影響を考える

□ 暴言暴力の根絶を目指す

□ アンケートにご協力ください

暴言暴力は認められない

日本は世界的にも注目されている



HUMAN  
RIGHTS  
WATCH

「数えきれないほど叩かれて」

日本のスポーツにおける子どもの虐待

# 「数えきれないほど叩かれて」

## 日本のスポーツにおける子どもの虐待

何十年間も、日本の子どもたちは、トロフィーやメダルの獲得のためという名の下に暴力を振るわれ、暴言を浴びせられ続けてきた。日本のスポーツには、体罰の歴史がある。今回の新調査により、学校や地域からトップレベルまで、スポーツをする子どもたちが暴力や性虐待、暴言の被害に遭っており、生涯にわたる心的外傷を受けていることが明らかになった。

「『数えきれないほど叩かれて』：日本のスポーツにおける子どもの虐待」は、オリンピックやパラリンピアンを含む、800人以上（50人以上のインタビュー調査と、オンラインアンケート調査での757人の回答）について、子どもときのスポーツの体験を調査してまとめた。オンラインアンケート調査では、少なくとも50競技、45都道府県での経験についての回答があった。顔面を殴られたり、蹴られたり、バットや竹刀で殴られたり、水分補給を禁じられたり、首を絞められたり、ホイッスルやラケットでぶたれたり、性虐待や性的嫌がらせを受けたなどの訴えがあった。近年、日本で改革が行われているものの、このような虐待が「当たり前」のこととされ、選手がアクセスできる通報相談窓口や救済措置が整っておらず、日本の学校スポーツから競技団体傘下のスポーツやトップレベルのスポーツまでアカウンタビリティ（責任追及）が不十分であることを、本調査は明らかにした。これにより、加害者である指導者が、他の選手にも危害を加え続けている。

日本が2021年7月に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向けて準備を進めているいま、日本の現状に対する世界の関心は、スポーツをする何百万もの子どもたちを守るために日本国内の法制度そして世界の政策を変える、またとない機会となる。

毎日誰かしら殴られてたし、試合中とかも……。本当にどれだけ殴られたか  
ってくらい殴られた。私がキャプテンだったのもある。……。髪の毛引っ張ら  
れたり、蹴られたりもした。……。(顔)が殴られすぎて青くなって。……。血  
が出たことも。……。でもその先生のこと、(今も)好きだし……。(当時)  
私のことプレイヤーとして信頼してくれてるなという感じもすごくしてた  
し、私の助けになろうともしてくれていた。……。みんな嫌いじゃなかった  
(でも)みんな、本当に先生のこと怖くて。……。(酷い指導者に関して言う  
と)DV被害者の心理と似ていて、アメとムチではないけど、愛情と虐待の  
両方を感じてた<sup>5</sup>。

**法律も認めていない！**

---

**そもそもスポーツと暴言暴力は無縁でなければならない**

# 現行 学校教育法 第11条

学校長及び教員は、教育上の必要があると認めるときは、監督官庁の定めるところにより、学生、生徒および児童に懲戒を加えることができる。但し、体罰を加えることはできない。

スポーツ指導者に

懲戒権は

認められていない

何が起きていているのか

見える化して

継続して議論する



昨年の講習の事例から読み取れる暴言暴力の悪循環

暴言暴力の**影響**を考える

子どもは ずっと 苦しみ続けていた

# 愛着（アタッチメント）とは

- 愛情を伴った**心の絆（きずな）**
- 特定人物との間に築く**深い信頼**
- 生涯にわたる**精神的健康**に寄与
- 健全な愛着を経験できないと、正常なパーソナリティ発達を妨げてしまい、**精神的健康**を蝕んでしまう。

【Aくんの場合】 プライバシー保護のため、若干の加工を施しています

Aくんは、ある日、学校に行けなくなった。

朝起きて、顔を洗うために鏡を覗いたら、自分が物凄く醜い姿に見えてしまった。だから、何度も何度も顔を洗って、頬が赤く擦り切れて腫れ上がり、血が滲み出てもやめなかった。母親が「何しているの。もうやめなさい」と制止してようやく踏みとどまったが、**涙が止まらない**。「これじゃ、学校に行けない」

そのような繰返しが毎朝のように続いた。そのことがキツカケで顔にお化粧をするようになった。少しでも、自分の醜い顔を隠したいがために。両手指の爪にもマニキュアを塗った。毎日、あまりに強く洗顔することで、爪もボロボロになってしまったからだ。それでも、心が休まることがなかった。母親に車で送ってもらって学校に行くも、トイレから出られない。明かに、**精神的失調**を呈していた。

普段から、周囲の眼差しが厳しく突き刺さる感じがしてならない。お化粧品にマニキュアは、男子なのにまるで女子のようにも見えてしまう。昨今は、多様性の時代と言われるようになってきたが、彼は、そんな悠長なことを言っている場合ではなかった。自分が醜くて許せない。しかも、**何もかも自分が悪いと落ち込んでいた。**そして、「引きこもり」から解放されるのには、5年以上の歳月を有した。

事の発端は、小学校5年生の頃。ちょっとしたミスをきっかけに、**コーチに怒鳴られ、顔を叩かれた**。毎週土日に限っては、練習時間も長く、練習試合もあったので、ミスをするこゝもしばしばあった。そして、**コーチから怒鳴られ、叩かれる機会も増えていった**。この頃の経験が、Aくんの心を蝕んでいった。すなわち、**愛着不安(Attachment Anxiety)**は、ますます激化していった。

**暴言暴力について次のように振り返っている。**

**「コーチから大きな声で怒鳴られて叩かれるのは、ミスをした僕が悪いと思っていた」**

**「ただただ怖かった、恐ろしかった、痛かった、ものすごくショックで、結構落ち込んだ」**

**「コーチはいつも不機嫌だったし、今日も怒鳴られ叩かれるかもと、ビクビクしていた」**

**Aくんは、コーチから暴言暴力を受けても尚、受け入れるしかなかった。**

**「何よりコーチに見捨てられるんじゃないか、バスケができないかもと、とても不安だった」**

**「これ以上ミスを繰り返したら、コーチは僕を指導しないって言ったから」**

**「期待に応えられないんじゃないかと、どうすれば良いかわからず、焦ってしまっていた」**

**Aくんは試合に出たかったから、嫌だけど、我慢することしかできなかった。**

**「だから、ミスは絶対にしちゃイケナイと思っていたけど、却って動きが固くなっちゃって」**

**「このままじゃ、試合に出してもらえなくなるんじゃないかと、さらに焦っちゃって」**

**「それだけは、絶対に嫌だったから。だから叩かれても我慢しなくちゃって思っていた」**

**自分の心の叫びを誰かに話すことすらでき  
なかった。**

**「強いチームは、どこも怒鳴られながら、叩か  
れているのが、当たり前だと思っていた」**

**「辞めたいとも思ったけど実際辞める勇気が  
なくて。自分が弱いと思われたくないから」**

**「親には何も言わなかった。だって心配する  
から。親には心配させたくないから」**

U12指導者の暴言暴力が  
子どもを追い詰めてしまい、  
精神的健康を蝕んだ

# **【U12指導における暴言暴力の影響について】**

- **そもそも愛着 (attachment)** とは、特定の重要な人物との信頼関係に着目した概念であり、**子どもとU12指導者との関係**においても勘案すべき課題でもある。
- 精神的失調に陥った原因は、間違いなく、U12指導者の暴言暴力によって引き起こされた異常なまでの**愛着不安 (attachment anxiety)** と推察できる。
- U12世代の子どもたちは、U12指導者の正常な**愛着**によってバスケットボールを**豊かで愛情に満ちた、健全な経験**として将来に繋いでいくことができる。
- 一方、U12指導者から受けた**暴言暴力**は、当時のみならず、**その後も、子どもたちを苦しめ続けてしまうこと**にもなっていた。
- **愛着障害 (attachment disorder)** ともいふべき問題を生んだのは、U12指導者が子どもとの関係の中で、**暴言暴力を常態化させてしまっていたこと**に依る。
- U12世代の子どもを指導する場合、**暴言暴力とは無縁**であって、**温かい家庭的な雰囲気の中で愛着に満ちている**ことを前提としなければならない。

アタッチメント

コーチングのすすめ

# 健全な『絆』を深めていく

- 子どもを指導すると同時に、子供からも学ぶという姿勢を有する(相互性)
- 『やる気』を引き出す(動機づけ)
- 押付けるのではなく、子どもと一緒に  
なって価値観・文化を作り上げていく

暴言暴力の根絶を目指す

継続的に議論しよう！

子どもと一緒に  
成長するコーチ

# 子どもを育むコーチング

- 子どもの「やる気」を育てていく
- 子どもの苦しみを理解し、改善  
することを第一義とする
- 『心』の安全と安らぎを与える

学ばざる者

教えるべからず

# 「技術指導」よりも「心の支援」を

- 子どもはコーチを信頼している
- 子どもを保護し癒していく
- 子どもを深く理解する(心の伴走)
- 学び続け、議論し続ける

悩みを共有し

互いに支え合う

## コーチも苦しんでいる

- 何をどのように苦しんでいるのか、  
**見える化**する必要がある
- その苦しみは他の人々を苦しめていることもあるかも
- 時には人を傷つけてしまうことも

# 暴言暴力の根絶を目指して

- 議論を風化させてはならない
- まず10年間は議論し続けよう
- 暴言暴力の根絶は必須課題
- 社会的な責任を帯びている

子ども の **未来** に  
**責任** を持つ

# JBAは皆さんと一緒に考えたい！

- **【RHS】** 皆さんの心の伴走者
- **レスキュー**：手を差し伸べる
- **ヘルプ**：一緒に学び続ける
- **サポート**：後方から支援する

アンケートにご協力ください

全員、ご回答をお願いします！